

救急蘇生法の指針2020（市民用）の変更について

1 「救急蘇生法の指針2020（市民用）」における主な変更点

「救急蘇生法の指針2020（市民用）」における「救急蘇生法の指針2015（市民用）」からの主な変更点は以下のとおりであり、これら変更点を踏まえ、まとめておりますので、ご参照下さい。

傷病者発見時の対応手順において、反応がない場合のほか、反応があるかないかの判断に迷う場合又はわからない場合も、心停止の可能性のあるものとして行動するとされた。

119番通報時において、電話のスピーカー機能などを活用すれば、通信指令員の口頭指導を受けながら胸骨圧迫を行うことができるとされた。

呼吸の確認と心停止の判断において、「普段どおりの呼吸か」どうか判断に迷う場合又はわからない場合も、心停止と判断して胸骨圧迫を開始するとされた。

AEDの電極パッド等について、従来の「小児用パッド・モード」が「未就学児用パッド・モード」へ、「成人用パッド」が「小学生～大人用パッド」へ名称が変更された。

令和3年7月に認可された「オートショックAED」（ショックボタンを有さない自動体外式除細動器）について新たに記載された。

気道異物除去において、反応があるが、咳をさせても異物が排出できない場合は、まずは背部叩打法を試みて、効果がなければ腹部突き上げ法を試みるとされた。

新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置について、これまで「救急蘇生法の指針2015（市民用）」の追補として示されていたが、新たに記載された。

2 応急手当の普及啓発時における留意事項

各消防本部における応急手当の普及啓発時には、以下の点にご留意いただき、講習をお願いいたします。

（1）AED電極パッドの名称変更について

【「救急蘇生法の指針2020（市民用）」より抜粋】

V. 一次救命処置 3. AED使用の手順 4) 電極パッドを貼り付ける（中略）小学校に上がる前の子ども（乳児や幼児）には未就学児用パッドや未就学児用モード（従来の小児用パッドや小児用モード）を使用します。小学生～大人用（従来の成人用）と未就学児用の2種類のパッドが入っている場合があり、イラストをみれば区別できます。未就学児用パッドが入っていなければ小学生～大人用パッドを使用してください。

(中略) 小学生や中学生以上の傷病者には小学生～大人用パッドを使用してください。

(中略) 未就学児用パッド・モードは、これまで小児用パッド・モードの名称で販売されており、2021年時点では古い表記のまま設置されているものも多い。同様に小学生～大人用パッドは成人用パッドの表記で設置されているものも多い。

(留意事項)

AEDの取扱いを説明する際は、従来の「小児用パッド」「小児用モード」が「未就学児用パッド」「未就学児用モード」へ、従来の「成人用パッド」が「小学生～大人用パッド」へ名称が変更された点を含めて周知すること。

市民が小学生の心肺停止事案に接する際、「未就学児用」と「小学生～大人用」のどちらを使用すべきかについて迷いが生じないように、適切な使用方法を周知すること。

従来の表記のまま設置されている機器も多いと考えられることから、緊急時に混乱を招かないよう、従来の留意点も含め、丁寧な説明に努めること。

(参考)

「自動体外式除細動器の使用法の市民への普及啓発について」(令和3年9月2日付け消防庁救急企画室事務連絡)

(2) オートショックAEDについて

【救急蘇生法の指針2020(市民用)】より抜粋

電気ショックと心肺蘇生の再開(中略)電気ショックが必要な場合に、ショックボタンを押さなくても自動的に電気が流れる機種(オートショックAED)が2021年7月に認可されました。

傷病者から離れるように音声メッセージが流れ、カウントダウンまたはブザーの後に自動的に電気ショックが行われます。この場合も安全のために、音声メッセージなどに従って傷病者から離れる必要があります。

(留意事項)

AEDの取扱いを説明する際は、ショックボタンを有さない「オートショックAED」があることについて、従来のショックボタンを有するAEDとの相違点、使用上の注意点等を含めて周知すること。

音声メッセージに従って行動する点は、従来のショックボタンを有するAEDと同様である旨についても説明すること。

(参考)

「ショックボタンを有さない自動体外式除細動器(オートショックAED)使用時の注意点に関する情報提供等の徹底について」(令和3年8月2日付け消防庁救急企画室事務連絡)